



WABA世界母乳育児週間 母乳育児 持続可能な開発の鍵

2 生後約6ヵ月間は母乳だけで育て、その後は適切な補完食を補いながら母乳育児を2年かそれ以上まで継続させれば、高品質の栄養、十分なカロリーが得られる。飢餓、低栄養、肥満を予防する助けになる。母乳育児は乳児に安定して食べ物を提供できる食糧安全保障になる。

3 母乳育児は乳幼児の健康・発達・生存を有意に改善させる。短期的にも長期的にも母親の心身の健康を改善する。

4 母乳育児と十分な補完食はその後の学習のための基礎となる。母乳育児と良質な補完食は、精神と認知の発達に寄与し、そのため学習能力を向上させる。

5 母乳育児は不平等を改善する手段である。すべての子どもが人生の初めに公平で最善のスタートを切ることができる。母乳育児は女性の固有の権利であり、女性が最適な母乳育児ができるように社会は支援していかなければならない。母乳育児は母親にとって満足感を得る経験であり、エンパワーされる経験でもある。どのように赤ちゃんを育てるかの主体を女性もつからである。

6 欲しいときに欲しいだけ母乳を与えると、たとえ熱帯であっても赤ちゃんに必要な水分は摂取できる。一方、人工栄養は、清潔な水、安全に調乳できる衛生状態や設備を必要とする。

7 人工乳を企業が製造する場合と比べ、母乳育児は(訳注 石油や電気などの)エネルギー資源をそれほど必要としない。

8 雇用主から母乳育児を応援されている女性は、生産性が高く雇用主への忠誠心が高い。母性保護やその他の職場の方針によって、女性は母乳育児と仕事や雇用を両立することができる。働きがいのある人間らしい仕事は、授乳中の女性、特に不安定な状況にいる授乳中の女性のニーズに合わせたものであるべきだ。

9 工業化と都市化に伴い、時間と場をどう確保するかがどんどん難しくなっている。家の外で働く授乳中の母親はこうした困難に対処する必要があり、雇用主・家族・地域からの応援が必要である。職場に近い保育所、搾乳室、授乳のための育児時間があることで、ずいぶん違ってくる。

10 母乳育児の状況は世界中の国で違う。母乳育児はすべての場で保護され推進され支援される必要があるが、貧しく脆弱な人々の集団ではとりわけそうである。そうすることで不平等が緩和される助けになる。

11 都会の喧騒のなか、すべての公共空間で、授乳中の母親と赤ちゃんは安心して迎え入れられる必要がある。災害や人道危機が起きた場合は、女性と子どもは特に影響を受ける。妊娠中や授乳中の女性はこうしたときには特別な支援を必要とする。

12 母乳育児は、健康的・実用的で汚染を起さずエネルギーも必要とせず持続可能な、栄養と暮らしの天然資源を提供する。

13 母乳育児は、戦禍などの人災や地震、地球温暖化による気候関連災害(水害など)にであつたときでも、乳児の健康と栄養を守る。

14 母乳育児は人工栄養に比べて水を必要としない。企業の人工乳製造と流通は廃棄物を生み出し、それが海を汚染し、海洋生物に影響を与える。

15 母乳育児は人工栄養に比べて環境にやさしい。人工乳は酪農業と関連しているが、二酸化炭素を排出し、気候変動につながる可能性がある。

16 母乳育児はさまざまな人権に関する枠組み・条約の中で重要なものと位置付けられている。母乳育児中の母親と赤ちゃんの権利を保護するために、彼らを保護し支援するための国内法制や方針が必要である。

17 「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」は多方面との協働を促している。開発を支持するさまざまな協力関係を基盤にして、複数の母乳育児のプログラムや運動(イニシアチブ)を通して進められることができる。

翻訳・発行:母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)
このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。日本語訳の転載、複写を希望される場合は、必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。
問い合わせ先 infobsn1@gmail.com <http://www.bonyuikuji.net>

〈理事名〉〔●は翻訳担当〕
●多田香苗(代表)、稲葉信子、入部博子、奥起久子、小野田美都江、小竹広子、●瀬尾智子、高橋有紀子、楯亜希子、西垣敏江、西田真奈美、
●長谷川万由美、●引地千里、福原敦子、●本郷寛子、●三浦孝子、森あさよ、山本よこ、涌谷桐子、柳澤美香、吉澤志麻、渡辺和香
BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。

入会希望の方は、次の事項を振込用紙の通信欄にご記入のうえ、年会費(3,000円)をご送金ください。
お名前・ご住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・所属や母乳育児のかかわりなど。
●会員特典
●入会時に刊行物を進呈します。●毎年のパンフレット日本語訳を送付します。
●資料購入の際の割引制度があります。●会員向けメーリングリストに登録できます。
送金先:郵便振替口座 00110-2-611471 加入者名 母乳育児支援ネットワーク



WABA世界母乳育児週間 母乳育児 持続可能な開発の鍵

1-7
AUGUST
2016



Jose Antonio© WABA 2013

はじめに

あなたは人と地球にやさしくありたいと願い、繁栄と平和を望みますか。それを望むなら、持続可能な開発を信じる、つまり持続可能な形で世界は発展していくことができると信じる多くの人と協働しましょう。未来の子どもたちに害をなさないように、現在暮らしている多くの人たちと協働するのです。

今年の世界母乳育児週間の焦点は、「持続可能な開発目標(SDGs)」です。SDGsとは世界中の国の政府が西暦2030年までに達成しようと合意した目標です。[1]SDGsはミレニアム開発目標(MDGs)*を基に作成され、生態系、経済、そして公平に関するさまざまな課題を網羅しています。この新しいSDGsは、貧困を引き起こす根本的な問題に果敢に取り組み、地球上のすべての人のための開発のビジョンを提供しています。

2016年の世界母乳育児週間は、私たちが協働し、母乳育児の保護・推進・支援を通じて持続可能な開発をどうしたら成し遂げられるかを示す新たな出発点となります。

【訳注】貧困の是正や健康の改善などに関し、2015年までに達成することが国連で合意された国際開発目標

2016年の世界母乳育児週間の目的

- 1 情報提供する**
新しいSDGsと、母乳育児と乳幼児の栄養の改善によって、目標がいかに達成しやすくなるかについて人々に情報提供すること
- 2 しっかり拠り所とさせる**
持続可能な開発の鍵となる母乳育児をしっかりその拠り所とさせること
- 3 活気づかせる**
SDGsの新時代において、母乳育児と乳幼児栄養におけるさまざまな行動をすべての場で活気づかせること
- 4 協働する**
母乳育児の推進・保護・支援に関連する広範囲な関係者と活動し協働していくこと

なぜそれが重要なのでしょうか

英国の医学誌『ランセット』に掲載された科学的根拠のある新しい情報によれば、最適な母乳育児*がなされれば、毎年82万3000人の子どもの命が救われ、グローバル経済は302兆米ドルのプラスとなることが示されました。[2]

【訳注】生後約6ヵ月間は母乳だけで育て、その後は補完食を補いながら2歳かそれ以上まで母乳育児を続けること

母乳育児は短期的にも長期的にもすべての子どもの健康の基礎となるうえに、母親にも利点があります。それなのに母乳率は世界的に過去20年間停滞したままです。母乳だけで育てられているのは、生後6ヵ月未満の乳児の40%にも達しません。実際には、女性たちは母乳で育てるにあたって多くの障壁に直面しています。保健医療従事者からの情報が不正確だったり、家族の中で男性パートナーから母乳育児に関する支援をもらえなかったりすることもあるでしょう。また、なかなか技術の高い母乳育児相談を受けることができなかったり、母乳代用品の積極的なマーケティングにさらされたり、産後すぐに仕事に復帰しなければならなかったり、ということもあるかもしれません。

こうした障壁のため、世界保健機関(WHO)が勧めているような(余分な飲食物を与えずに)生後6ヵ月間母乳だけで育てて2年以上母乳育児を継続させることが非常に難しくなっています。[3]母親が最適な母乳育児ができるように支援するためには何が重要なかはわかっているのですが、それを実現させるためにはもっと積極的になって多くの人々を巻き込む必要があります。母乳育児とSDGsを結び付けることは、その助けになります。

このパンフレットの使い方

このパンフレットは、母乳育児がSDGsの17の目標(7ページ参照)や4つのテーマとどう結びついているのかを説明しています。4つのテーマは母乳育児と強い関連性をもってSDGsをつなぎ合わせています。関連するSDGsの目標は各ページの先頭に書かれています。それぞれのテーマは、母乳育児とSDGのテーマの結びつきを示す短い仮想シナリオから始まります。その後、アドボカシー活動*に役立つ事実や図表を載せています。このパンフレットの末尾には、持続可能なパートナーシップや法制によってSDGsを達成するために協働する方法についての項目がついています。このパンフレットを読んで、活動にぜひお役立てください。

【訳注】母乳育児の権利を擁護しその障壁を取り除くための運動

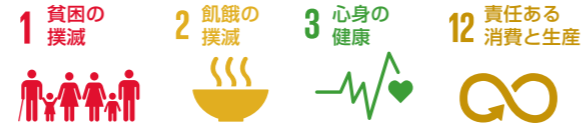
www.worldbreastfeedingweek.org



参考文献
1.Transforming our World: the 2030 Agenda for Sustainable Development. WHA Resolution, 70/1. 2015
2.Why invest, and what it will take to improve breastfeeding practices? Rollins, Nigel C et al., The Lancet, Volume 387, Issue 10017, 491- 504
3.Breastfeeding in the 21st century: epidemiology, mechanisms, and lifelong effect. Victora, Cesar G. et al., The Lancet, Volume 387, Issue 10017, 475 - 490. 2016

テーマ1: 栄養、食糧安全保障*と貧困減少

【訳注】母乳を続けることで乳幼児の安定した食(栄養)が確保でき、人工乳にかかる費用をほかの家族の食費に回すことで、家族全体の食が保障される。



THEMATIC AREA 1

シナリオを想像してみましょう

飢饉がよく起こる人里離れたある土地では、母親たちは子どもが幼児になるまで母乳育児を続けていることで知られています。母乳で育てることは自給自足の生活の糧であり、わが子に安定して食べ物を供給できる食糧安全保障であることを、そこに住んでいる母親たちはわかっているのです。飢饉が起こりひどい飢餓が蔓延すれば、母乳で育てられていない幼児は弱者であり真っ先に命を失うこともよく見られました。

特に低所得地域では、母乳で健康を守る必要がないほどわが子が大きく強くなったと思えて初めて、母親は授乳をやめるといのがふつうです。子どもが1歳過ぎたら母乳をやめるように母親にいうことは、生涯にわたっても短期的にもリスクをかかえる可能性があります。

食糧安全保障とは、母乳育児を続けることで予測できない未来に備えるといった、目に見えない保護をも意味するのです。母乳はお金がかからずに入手する栄養であり、貧困の影響を減らすための大切な方法の1つです。



Chandan Dey© WABA 2008

考えてみましょう

あなたの住んでいる地域では、よい栄養状態と食糧安全保障を増進するのに、母乳育児がどのような役割を果たしていますか。

事実を数字で見てください

行 動

- 最適とはいえない母乳育児を含め、低栄養は、5歳未満の子どもの年間死亡原因の45%に関与しています。^[4]
- 「栄養失調の最も一般的な形である発育不全(年齢に不適切な低身長)」は、すでに生まれたときに見られ、2歳(24ヵ月)になるまで急激に増え続けます。発育不全を減らす絶好の機会、受胎から2歳までの1,000日間です。^[5]
- 低出生体重と発育不全を予防し、産後早期に母乳育児を開始して母乳だけで育てるために初期投資をすることで、のちの肥満や慢性疾患のリスクを減らすことにもつながります。^[6]
- 母乳で育てないことは、年間302兆米ドルの経済的損失、つまり世界中の国民総所得の合計の0.49%の損失と関連しています。^[7]
- 世界中で家族が人工乳の購入に約54兆米ドル費やしています。^[7]
- 母乳で育った人はそうでない人よりも高収入を得ていることがわかりました。^[8]

- 1 地域の保健センターに聞いて、その地域の母乳育児の統計を手に入れてみましょう。母親に経験を聞き、現状からわかったことを元に行動計画を立てましょう。
- 2 母親同士の母乳育児支援グループ内で、父親を巻き込み、乳児栄養への父親からのサポートの重要性と、どうしたら父親が支援できるかを話し合みましょう。
- 3 あなたの身近な人たちが「母乳で育てること、適切な時期の補完食、2歳かそれ以上まで母乳育児を続けることはごくふつうのことなのだ」と思えるように助けましょう。例えば、男の子もですが女の子は特に、母乳育児について学べるように、女性の授乳している姿をふつうに見かけることが必要でしょう。
- 4 地域の医療機関、薬局、スーパーマーケットが「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」(以下「国際規準」)を遵守しているかを確認しましょう。「国際規準」遵守状況の調査のためにIBFAN(乳児用食品国際行動ネットワーク)のモニタリング・ツールを使いましょう。
- 5 農業普及プログラムと協働し、地方共同体に母乳育児支援を広めましょう。

参考文献

4. Maternal and child undernutrition and overweight in low-income and middle-income countries. Black R. E. et al., The Lancet. 2013.
5. De Onis M. et al., The World Health Organization's Global Target for Reducing Childhood Stunting by 2025: Rationale and Proposed Actions, Maternal and Child Nutrition. 2013.
6. Christian P. et al., Risk of childhood undernutrition related to small-for-gestational age and preterm birth in low- and middle-income countries. International Journal of Epidemiology. 2013.
7. Victora Cesar G. et al., Breastfeeding in the 21st century: epidemiology, mechanisms, and lifelong effect. The Lancet. 2016.
8. Victora C.G., Horta B. L., de Mola C. L. et al., Association between breastfeeding and intelligence, educational attainment, and income at 30 years of age: a prospective birth cohort study from Brazil. The Lancet. 2015.

テーマ2: 生存と心身の健康



THEMATIC AREA 2

シナリオを想像してみましょう

アナは貧しい都市の生まれです。アナの母親は粉ミルクがあちこちで宣伝されているのを見ていましたが、母親自身も母親の姉妹も母乳がいちばんだといつも信じていました。数週間たって、アナは元気に発達もよく育ちます。予防接種も決められたスケジュール通りに終わり、今まで病気にかかったことはありません。それで母親は仕事をすることができます。保健師は母乳育児支援の研修を受けていて、アナの母親を褒め、母乳で育てると母親も乳がんのような疾患にかかりにくくなることを伝えます。時には食費があまりないこともありましたが、アナは1歳過ぎても母乳を飲み、家庭での食事を食べていたので、栄養的に十分足りていました。

何年か経ち、アナは学校に入ります。教師はアナの学力のつきかたが早いことに気が付いて母親に知らせます。アナの母親は、自分の母乳がアナの脳と目の発達を助けたこと、病気にかかりにくかったことでアナのエネルギーが成長や学習に使えたことがわかります。アナはまだ幼いですが未来は明るいのです。なぜなら母乳によって人生の幸先のよい出発をし、その恩恵は一生重要なものになっていくからです。母乳は貧困から子どもが抜け出すことを助けることができます。母乳で育つことで高等教育を受けることが可能になり、より収入を得ることで、よりよい将来につながるからです。



Telma Geovanini©WABA 2012

考えてみましょう

あなたの地域、身の回りでは母乳育児はどのような状況ですか。赤ちゃんにやさしい病院や産院はいくつくらいありますか。

事実を数字で見てください

行 動

- WHO/ユニセフの「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」を実施するためのプログラムにかかる費用は、214カ国で赤ちゃん1人当たり130米ドルと見積もられています。「母乳で育てている率や母乳育児の継続率を増やすために効果的なサービスへの投資は、数年、もしかしたらたった1年で回収できる可能性があります」^[9]
- 平均でいうと、母乳で育てられた赤ちゃんは、母乳で育てていない赤ちゃんよりも2.6点IQが高く、授乳期間が長いほど差が開きます。^[10]
- 母乳育児は一生涯の心身の健康を支える基盤になります。母乳で育てていない子どもや母乳で育てていない母親は多くの病気にかかるリスクが高くなります。子どもは急性疾患や慢性疾患、母親は乳がんや卵巣がんにかかりやすくなります。^[11]
- 最適とはいえない乳児栄養のために、年間82万3000人の子どもが亡くなっています。^[11]
- 母親が最適な母乳育児をすれば、乳がんによる死亡が2万人減るでしょう。^[11]

- 1 政治家などの指導者に、SDGs目標達成のために母乳率を上げる価値について伝え、政治課題に母乳育児を入れるように話しましょう。
- 2 地域のすべての母親がスキルの高い母乳育児支援を受けやすくなるように働きかけましょう。
- 3 国の保健法の中で「母乳育児成功のための10ヵ条」がすべての病院の標準的産科ケアとして取り入れられるよう運動を推し進めましょう。
参照: <http://www.unicef.org/newsline/tenstps.htm>
- 4 すべての医師や看護師の新任研修のカリキュラムに母乳育児がしっかりと含まれるように運動を推し進めましょう。

参考文献

9. Renfrew M. J. et al., Preventing disease and saving resources: the potential contribution of increasing breastfeeding rates in the UK. UNICEF UK. 2012.
10. Horta B.L., de Mola C. L., Victora C. G. Breastfeeding and intelligence: systematic review and meta-analysis. Acta Paediatr Suppl 2015.
11. Victora Cesar G. et al., Breastfeeding in the 21st century: epidemiology, mechanisms, and lifelong effect. The Lancet. 2016.

テーマ3: 環境と気候変動



THEMATIC AREA 3

シナリオを想像してみましょう

どのような旅でも最初の一步が肝心です。母乳育児はさまざまな意味で実際的に取りうる初めの一步です。生まれてすぐから母乳で育てることで、赤ちゃんとお母さんの健康を守るというだけでなく、私たちの地球を健やかに保ちます。赤ちゃんにも環境にもやさしく持続可能な栄養を与えるからです。

人工栄養の消費を増やすことは地球温暖化を招き、やがて温暖化による気候変動が地球の未来を破壊しかねません。強大でひんぱんな台風、ハリケーン、サイクロンに見舞われて最も影響を受けるのは、最も脆弱な人々です。自然災害の壊滅的被害のさなかで、清潔な水とインフラの不足から、人工栄養で育てることは特にリスクが高くなります。十分に冷蔵もできず清潔な沸騰水がなければ、赤ちゃんの食べ物(人工乳)を安全にきちんと準備することは難しくなります。

一方、母乳で育てることは子どもの健康を守り、赤ちゃんだけでなく、すべてを失ったかもしれない母親にとっても心の慰めとなります。母乳育児カウンセラーは、家族に寄り添い、心的外傷を受けた母親が母乳育児を続けるための、あるいは母乳を再開するための自信をもてるように支援することで、母親の苦難を和らげることができるでしょう。



Jaime © WBW 2015

考えてみましょう

あなたの身の回りの若者に、母乳育児と環境についてどのようなことを伝えることができますか。

事実を数字で見てください

行 動

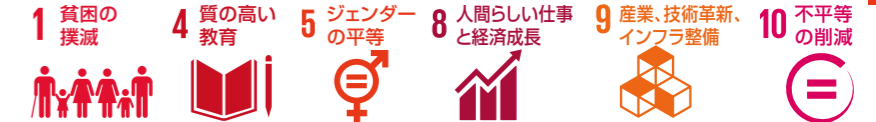
- 母乳は環境的に安全な「再生産できる自然食品」であり、汚染も少なく包装も不要で、ごみを出さずに生産され消費者に届けられます。^[12]
- 人工乳の製造と使用は温室効果ガスを排出させ地球温暖化を加速させ、また、ごみを出すことで汚染を生み出し有害物質を放出させます。^[13]
- アジア6カ国で年間販売される72万450トンの人工乳は、約290万トンの温室効果ガスを排出します。これは、平均的な乗用車の運転手が70億マイル近く運転することで出る量に等しく、埋め立て地に運ばれる103万トンの廃棄物の処理で出る量と同等です。^[12]
- 母乳代替品の粉ミルクを1キロ製造するのに必要な水は4,000リットル以上と見積もられています。^[12]
- 母乳で育てることは、温室効果ガス、環境悪化や汚染を減らすことになるのです。^[12]
- 母乳育児は化石燃料に依存する経済から、二酸化炭素の排出が少ない経済への移行を助けます。母乳の産生に電気を必要としませんが、輸送のための燃料も不要で、したがって、主要な温室効果ガスである二酸化炭素の排出量を減らします。^[12]

- 政府に働きかけ、母乳育児の状況を改善することを、SDGs目標達成のための活動の一部に組み入れてもらいましょう。
- 自分の国における人工栄養のカーボンフットプリント*を算定するように研究者を促しましょう。
【訳注】肥料、輸送、燃料など生産コストから計算される二酸化炭素排出量。例えば、1.9リットルのオレンジジュース1パックは、1.7キロの二酸化炭素に相当する温室効果ガスを産出すると見なされる。女性は母乳をカーボンフットプリント0(ゼロ)で何百リットルも製造できる(「母乳育児のポリシー」メディカ出版、p.426)
- こうしたデータを使って、母乳育児率を上げ、そのことで大気汚染を減らすような方針やプログラムのための予算を政府が組めるように働きかけましょう。
- カーボン(炭素)や水のフットプリントを減らすための行動のリストに母乳育児を加え、気候変動についてのPR活動に母乳育児を含めましょう。

参考文献

12.Linnecar A. et al., Formula for Disaster. IBFAN Asia/BPNI; 2014. Available at: <http://ibfan.org/docs/FormulaForDisaster.pdf>
13.Rollins N. C. et al., Why invest, and what it will take to improve breastfeeding practices? The Lancet 2016.

テーマ4: 女性の生産性とエンパワメント



THEMATIC AREA 4

シナリオを想像してみましょう

母乳はかけがえのない食糧源で、保護が必要です。主に開発途上国に在る約8億3000万人の女性は、職場における社会保障が不足しています。女性はしばしば低賃金で劣悪な仕事を行わざるを得ない状況に追い込まれています。母親が仕事に復帰すると子育てのために費やす時間は短くなります。母乳で育てることが減るかもしれないし、子どもがより病気にかかりやすくなり、学業成績も伸び悩みます。母乳で育てられていない場合、被雇用者は子どもの世話のためにより仕事を休む回数が多くなり、生産性が下がります。それなのに、世界中の国の政府は、経済成長、ジェンダーの平等、そして貧困の減少の解決法として女性の労働力への参画を強調しています。

家庭における女性の育児や介護などの無給の仕事は、家族の構成員の心身の健康と発達にとって重要であり、経済発展・社会発展の運動戦略の中できちんと認識されるべきでしょう。職場でのジェンダーの不平等を是正するためには、女性は職場での生産の役割と母乳育

児を含めた出産・子育ての役割を両立させる支援を必要としています。例えば、産前産後休業(産休)、母乳育児のための有給の育児時間、柔軟性のあるフレックスタイム、搾乳のための部屋などの設置です。



Sonia Puri ©WBW 2010

考えてみましょう

あなたの地域では、女性が仕事に復帰したとき、母乳で育てるためにどのような支援を受けているのでしょうか。

事実を数字で見てください

行 動

- 母親が雇用されていると母乳率が減少する傾向があり、すでに知られているように、それがすべて健康の阻害につながります。^[14]
- 有給の産休が1ヵ月延長されるたびに、乳児死亡率が13%減少します。^[15]
- 国際労働機関(ILO)の母性保護条約では女性の権利として最低限14週の産休を保障すべきとしていますが、53%の国しか達成できていません。
【訳注】日本はILOの母性保護条約を批准していませんが、労働基準法で産前・産後休業について以下のように規定されています。
労働基準法(法第65条第1項及び第2項)
女性が請求した場合には産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間)まで休業を与えなければならない。産後は8週間女性を就業させることはできない。(ただし、産後6週間を経過後に、女性本人が請求し、医師が支障ないと認めた業務については、就業させることはさしつかえない)
- 産休制度は母乳だけで育てる率を上げるために効果的です。^[17]
- 母乳をしぼるための部屋と母乳育児のための有給の育児時間は、生後6ヵ月の母乳率を上げる可能性があります。^[18]

- あなたの国の母性保護についての方針を調べましょう。また、自分の住んでいる地域で、地元の雇用主が提供している産休・育児休業・育児時間や職場の状況を調べましょう。
- 正規や非正規にかかわらずすべての労働形態において、労働者の母性保護の必要性和権利を擁護しましょう。
- あなたの国の政治家や役人を促し、母性保護・子育てのための権利・保護の現状を査定してもらい、「世界母乳育児動向イニシアチブ」(WBTi)などの現存するツールを使って、現政策における欠落部分を特定してもらいましょう。
参照:<http://worldbreastfeedingtrends.org/>
- 有給の育児保護政策を推進しましょう。ジェンダーに公平で、両親と子どもの3者を包括し、両親が共同で子育てすることと母乳育児を支援するような政策です。
- どうしたら雇用主が自分の職場で母乳育児を支援できるようになるか、地域の雇用主と話し合いましょう。職場が「家族にやさしく」変革されるように推進しましょう。
これには以下が含まれるべきです。
 - 母乳育児がしやすいよう応援する保育園を通いやすい場所にすること
 - 職場の中もしくは近くに、母親が快適に安全に授乳したり、母乳をしぼって保存したりする施設があること。それは、プライバシーに配慮された衛生的な空間であること
 - フレックスタイム、授乳のための育児時間、もしくは、労働時間の削減、在宅勤務
 - すべての労働者ための、特に妊娠中や授乳中の女性のための、雇用に不利を招いたり賃金を減らされたりしない安全で衛生的な環境

参考文献

14.Johnston M.L., Esposito N. Barriers and facilitators for breastfeeding among working women in the United States.Journal of Obstetric Gynecology and Neonatal Nursing. 2007.
15.Nandi A et al. Increased Duration of Paid Maternity Leave Lowers Infant Mortality in Low- and Middle Income Countries: A Quasi-Experimental Study. PLOS Medicine. 2016
16.International Labour Organisation. Maternity and paternity at work: Law and practice across the world. 2014.
17.Hawkins S. S. et al., The impact of maternal employment on breast-feeding duration in the UK Millennium Cohort Study. Public Health Nutrition. 2007.
18.Dabritz H. A. et al., Evaluation of lactation support in the workplace or school environment on 6-month breastfeeding outcomes in Yolo County, California. Journal of Human Lactation. 2009.

持続可能なパートナーシップと法の支配



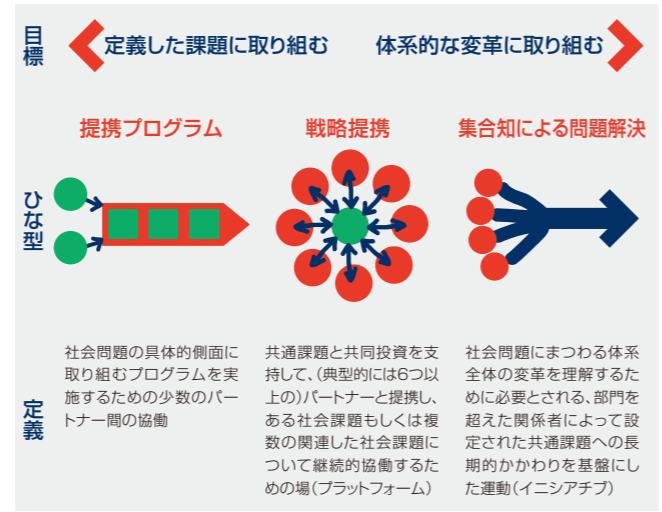
「ひとりの子どもが育つためには村ぐるみで育てる必要がある」という考え方は、理想とする村(地域共同体)を創り出すために、私たち一人ひとりが自分の役割を果たそうという呼びかけです。私たち皆が利用できる公平な法律が必要です。協働のための新しくよりよい方法を見出す必要もあります。

SDG16は、公平で平和で包摂的な(だれもが受け入れられる)社会を推進することを目標としています。私たちには、子どもたちへの、そして子どもたちが受け継ぐ未来への連帯責任があります。すべての子どもには潜在能力があります。そしてその潜在能力は、権利が尊重され責任が果たされてのみ発揮されるのです。「子どもの権利条約」は、子どもの権利を保護します。女性も社会や職場で男性より不利になったり扱いが違ったりしてはいけないという権利をもっています。

私たちが望むような村を創り出すためにするべきことはたくさんあります。母乳率を向上させるためには、多くの障壁を乗り越える必要があります。障壁には、政府の不十分な方針、情報や助言不足、地域での支援の欠如、母乳代用品の激しい売り込みがあります。そうした障壁を乗り越えるには、グローバルなパートナーシップ(地球規模での連帯、国際協力)が必要です。

SDG17は「人手が多ければ仕事は楽になる」ということを思い起こさせます。私たちの望む「村」を創り出すためには、協働する必要があります。「世界母乳育児週間」は、地域社会、国、国際地域における変革者と連帯し、グローバルな行動を求めます。私たちは連帯の輪を広げ、母

乳育児に関する既存の運動を超えてほかの人たちとも協働し、手を組み合わせて持続可能な開発を達成し、人権を守っていかなければなりません。こうしたバランスと相互依存を認識することでのみ、私たち人類は種として生存できるのです。



インフォグラフィック(情報、データ、知識を視覚的に表現したもの)、複数の利害関係者(ステークホルダー)間の協力関係を表す基本類型(Peterson et al, 2014)



持続可能な開発目標

(SDGs)(日本ユニセフ協会訳)

1 地球上のあらゆる形態の貧困の撲滅

2 飢餓の撲滅、食糧安全保障と栄養改善の達成、持続可能な農業の推進

3 すべての人の生涯にわたる健康な生活の保証と幸福度の向上

4 すべての人が公平に受けられる質の高い教育の完全普及と、生涯にわたって学習できる機会の向上

5 ジェンダーの平等の達成とすべての女性と女子のエンパワメント

6 すべての人が安全な水とトイレを利用できる状況の実現とその持続可能な管理の確立

7 すべての人が利用可能な、信頼性が高く持続可能な現代的エネルギーの確保

8 すべての人にとって持続可能な経済成長の維持と、完全で生産的な雇用と人にふさわしい仕事の推進

9 災害に強く回復力のある(レジリエントな)インフラの整備、すべての人のための持続可能な産業化の促進、技術革新の推進

10 国内および国の間の不平等の削減

11 すべての人が受け入れられる、安全かつレジリエントで持続可能な都市と住居への転換

12 持続可能な消費と生産パターンの確保

13 気候変動とその影響への緊急対策の実施

14 持続可能な開発のための、海洋と海洋資源の保存と持続可能な方法での利用

15 地上生態系の保護・回復・持続可能な利用促進、持続可能な森林管理、砂漠化対策、土地劣化の阻止と回復、生物多様性の損失防止

16 持続可能な開発のための、平和で誰もが受け入れられる社会の推進、すべての人が司法にアクセスできる環境の確保、誰もが利用できる効果的かつ責任の所在が明確な制度の各レベルにおける構築

17 持続可能な開発を実現するための手段の強化と国際的な協力関係の活性化

持続可能性のために協働しましょう

行 動

- 母乳育児の価値に関する科学的根拠をあまねく知らせましょう。特に権力と影響力のある人たちに伝えましょう。行動とその結果をモニタリングすることも、科学的根拠を積み重ねるために重要なことです。
- 母乳育児に対する肯定的な態度を促進しましょう。母乳育児について語られれば語られるほど、私たちからのメッセージがより効果的になっていきます。
- 母乳育児のプログラムが、すべての保健医療プログラムに含まれるように運動を推し進めましょう。
- 法律を施行しましょう。母乳代用品や関連製品の販売促進は、母乳育児と赤ちゃんにとって最良で初めての食を阻害するので、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」の法制化を求めましょう。
- 国際条約は、合意されたグローバルな考え方を提示しています。地域、国レベル、より高い国際レベルで協働し、母性保護といった子どもや女性の権利に関する条約が、国内法に反映され、法制化されるように要求しましょう。

- 母乳育児の大切さに関する科学的根拠と、母乳率を上げるために必要な介入を理解しましょう。
- 関連する国際条約や国内法、法規、方針について学びましょう。
- 連帯できる可能性のある人々を特定し、協働しましょう。一緒に変革するためにそのままにしておけない共通の案件を作りましょう。3から5つの優先項目を選び、喫緊の共通案件を計画しましょう。
- 連帯する相手や支援者を選ぶときには、利益相反*に気をつけましょう。
【訳注】利益相反とは、健康の推進という目的に相反する製品を販売して利益を得る企業から資金援助を受けることなどを指す。
- さまざまなスキルをもった人々に協力してもらうことで、運動に勢いをつけましょう。
- 時間と、金銭を含めた資源を振り当てましょう。十分に計画し説明責任を果たしましょう。

謝 辞

WABA would like to thank the following: Contributors: JP Dadhich, Alison Linnekar, Julie Smith, Genevieve Becker, Ted Greiner, Jay Sharma and Satnam Kaur. Reviewers: Laurence Grummer-Strawn, Michele Griswold, Miriam Labbok, Jane Kato-Wallace, Jennifer Mourin, Arijit Nandi, Vasantha Sampasivam, Gina Yong; Anne Ba. erjee, David Clark, France Begin, Irum Taqi, Maaike Arts and Prashant Gangal. Key editor: Amal Omer-Salim. Advisor: Felicity Savage Designer: Ammar Khalifa. Production: Chuah Pei Ching and Derchana Devi. Printed by:JUTAPRINT, Penang. This project is funded by the Swedish International Development Cooperation Agency (Sida).



世界母乳育児行動連盟(WABA)は、世界規模で母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の世界的なネットワークです。WABAの活動は、「イノヴェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク(連結)」、「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。WABAの現在の中心となる仲間はすべて、主要な国際的母乳育児支援団体でもあります。母乳育児医学アカデミー(ABM)、乳児用食品国際行動ネットワーク(IBFAN)、国際ラクテーション・コンサルタンツ協会(ILCA)、ラ・レーチェ・リーグ・インターナショナル(LLLI)、ウェルスタート・インターナショナル(WI)。WABAは、ユニセフ(国際連合児童基金)の諮問資格を有し、また、国連経済社会理事会(ECOSOC)の特殊協議資格をもつNGOです。

WABAはいかなる形でも、母乳代用品、関連する器具や補完食を生産する企業からの資金援助はお断りしています。WABAは世界母乳週間の参加者全員が、この倫理上の立場に従い、これに敬意を払ってくださるようお願いしています。